

ごみの減量、生ごみの資源化有効活用について

稲田幸（社会人コース）

1. 課題研究に標記のテーマを取り上げましたのは、生活環境改善に思いを寄せており、特にごみの減量化には多くの関心を持ち、生ごみを堆肥化して有機肥料等の資源化して有効活用、プラ容器の再利用等の有効使用、また生活排水の浄化には強く思いをいたしており、自分の知識の及ぶ範囲においてできるところから実践している。

排出されるごみの処理は大半が安価で簡便な焼却処分がなされているが、近年には材質により仕分け分別収集し、リサイクル化するなど焼却処分量の低減化に努められている。焼却処分ではCO₂等大気汚染物質の発生があり、市民の意識にも生活環境改善への高まりが芽生えだしている。また石油とか鉱物資源等は有資源であり有効活用が見直しされてきており、市民にも少しずつではあるが理解されつつあります。

多くの方々に事の重要性を発信し、理解と協力を求め、生活環境を改善し、健康で安心・安全な社会の構築を願い、生活習慣の見直しにより改革・改善し、大気汚染の負荷低減を含め、浪費のムダを排除しながら、大切な資源の有効活用を希求し、持続可能な社会の構築を願うものである。

- 課題として
- ①ごみの処理について
 - ②廃棄される要因の分析と意識行動について
 - ③改善策と有効性の問題について
 - ④生ごみの資源化有効活用について
 - ⑤プラ容器を含む廃プラの再使用について
 - ⑥誰が、何時、何処で、どのようにするか

について研究履修し手法を探求して提言するものである。

最初は個々人の小さな活動でも、有益な活動であればその輪は広がり大きな成果を出しましょう。大きな期待を寄せるものである。

2. 実例としては、生ごみ（魚の骨、鶏殻、梅干しの実等堅いものは発酵し易く砕いて処理）や野菜屑、刈草、落ち葉、庭木の剪定枝、園芸の草花等身の回りで出る有機物の大半はEM（有用微生物群）の働きで発酵・熟成させ堆肥化して施肥し、また土の中に入れて土づくりに活かしており実例を紹介します。

EMの活性液は水の浄化等に大きな効果があり実例を紹介します。

今回のフィールド調査は、岐阜市で行われているパイロット事業の生ごみ分別収集し、堆肥化した仕上がり品の農産物栽培に活用している実例について報告します。

1, 223世帯（22年2月末現在）対象に107, 255kgを収集。全体を5組に分け1週間に1回、軽トラにパートタイマーの女性が2人1組で定例日に収集。市の清掃（焼却）工場内の遊休スペースにある処理工場で、加温調整で水分調整し、発酵装置で発酵・熟成させ、種子の除去後製品化し出荷している。

